



楚連のとくのとくのとくのとくのとくのとくの
雪澤のわうを出てあらわもくの國へまひて馬と小玉
とく峰あり日をじとて尾越の路あり
かのとくのとくのとくのとくのとくのとくのとくの
あせ高けむあがる今朝懸とくとくとくとくと
さうし坂をあく、鳥帽子山とおとす母爺と
いともと名あら山のとくのとくのとくのとくのとくの
出羽の國の出とくし廢帝と山あ、陥落補の蝦夷等
とむけをすすむとくのとくのとくのとくのとくのとくの
あわあわとくのとくのとくのとくのとくのとくのとくの
川と水と石と土と水と土と水と土と水と土と
世をすとくせ多大とおと東北と伊以石と

さあく狗のぬせねがふもる石どもまはれつてひづる
うのもじらうりが栖家りうれし里といひゆす前山
千裡釣川を度て毛布の郡鹿角の庄毛馬内の縣を
つれむおれも祁麻足とひ奈為澤てゑひも詔引て
足沢とひとこうふそらむ多岐ちうとうふあひす草薙
も脚の澤とひとすらみかひくわな名也毛馬内花輪の土
毛毛薺紫の根染色ぬうやくの疾鎌とひ牛筋ウシヌシ
鎌とひとすら、墨栗敷の儀物賣れとのとすな津輕
の郡黒石の里と大谷の家小制考カヒコ色れ雪あ
花あくし小くすれ品もとやもやとく酒殿サケダ酒サケや
日まだ音の市だき里肥へゆくふとひよとすひとすと
併ひまつりけあかうのりとよやくめ

書用せうかアホ小森ひまうぢ月出神ツキヒナカミモト原モ人ふせ
あれく出づきやえ流と半裡釣川とひとすらひとすら
えうひとすられもとすらけとひとすらとすらぬそりとすら
の名カタすひとすられどもうえ川とひとすらとすらくの前
とわすくお見後す併ひ毛馬内澤マニツケ飯形ヒシキの社
山邊ヤマヘよりも大瀧オオハラあり雄瀧ハラハラ不動ボントウともちきり山事
より米山あり越アシのまよメ藥師ヨクシゆせ堂ヨウジヤひしき春ハナ
野火ヨウヒのればざくら大地タカヒコの付タタケて大事の藥師ヨクシモ不
動尊の祠ボントウノミコトとも近き世ハシタシにせせらうとすらとす
すれぞ不母節ムセツ山ヤマありひも毛馬内の里マニ真圓マハラの方カタ
わちんぶ西夜シナニの林原リハラ、一位大坊オーナーゆすとく、大同ダントウは

も馬内の北より古館とよばれて、盛田統
小て大權之祐といひ、御負をうけてして、鹿角の郡二
萬石の邑なり。又は、城山の下に西町とも、御本民會
所ともいへど、大坊のむちこかく、もとより極遠で
一位のあとをもつて、武田氏家也。和田兼藏もおほき
ゆきもんあつて、蝦夷の部り寄せるもあらうてよしむ
うち、海に唐方をうて、そぞろ國へひれぞとてゆき
申すて、津軒の郡藤崎村小のうして、大聖院とよ
優婆塞の家すまひて、さんまとまひて、藤崎坊
もすの挾布の郡少すくも馬内ハ武田氏の命もえ
大坊一位の家ともうてづしみ、城の鎮坐、少宮幡、摩
利支天の二社あり。二十石をもつてゆきうてひじ

錦木懷古

東都源尚

君不見南部城西毛布里綽約憂女深窓
裏薰性蘭心世所稀明眸皓齒一何美
門擇對未許嫁室中好色誰家子覩
覩彼姝寄殷勤心旌搖搖若亂雲目抵情
馳無不到尾生之信那日云踰牆憾悅
無由去夜微行多露暮有鳴鳥雉鳴
松桂谷縵々狹行草城路衝風冒雨度幾
霄櫻樹林中錦綉替一夜一株春復秋千
株千夜未嘗遇身瘦氣衰奈情何隨淚川
畔獨經過誰肯咸酸發驥雪飄倏忽凍化斃
郊原春亦感之心私慕遂期黃壤契幽婚一

樹空認同穴塚千年賜詔吊香魂楓葉秋紅
錦機張蟋蟀聲各自斷腸吾亦與東探勝者相傳俗說謾成章章成佇立蘿裡側古河風水轉沾裳

錦木四章章四句

二階堂道形

錦木在門雨雪翻子心雖怨我不敢奔
錦木在戶乃雪乃雨子心雖怒我不敢迂
錦木在牆乃雪乃霜子心乃傷我不敢忘
乃霜乃雪終死同穴嬉女明哲葬儉烈

題錦樹古墳

東都劉文州

鹿角郡原夏艸薰米川波浪五宮雲
唯看奇石青松裡千載感人錦木墳

錦樹墳歌七言

龍嵩狂夫

孤村地僻倚圭邃忽看序石埋紫翠云是
狹里錦樹墳野翁為說千古事曷不聞昔
者推古皇帝時色之長有好女兒女兒二六
名政子碧紗窗裡巧織機天質美不假粧粉
玉貌閑麗雪為肌細腰纖手何其艷齒加
含貝羽翠眉靄髻髻綽態多更疑芙蓉出
綠池遐邇無問老與少見之何人不惱思艸城村
中一男子風度清英美姿儀眷戀政子最
為甚寄情通問錦樹枝千枝萬條遂不
答秋風誰愍顏色衰臥病室去宅安
鄉政子始聞不勝悲仰天慟哭淚為血懷

恨否聲瓊花萎何知一旦先朝露父母哀
 謂無盡期悔令寔是脩不理婚合尸聊葬郊
 北魚郊北原頭草蕭瑟為裁錦樹成墓
 門暮門不朽千餘歲猶看拱木連理存國
 風往弔古在昌豆無辭慰芳魂聞之余
 亦淚模糊撫碑長揖且跪躅墓乎墓乎叶
 何久埋身莫嗟在荒蕪雖天地多墳榮
 今古獨高錦樹名

詠錦木和歌

三論表秀

名篇

藤枝道恒

錦文

東政智

毛馬内次全

高田康英

おせつ

魚波も今やひひりも錦糸の名を遺す

大田忠做
萬代土三德

もしらぬきももる一ゆ布のあくま

僧惠明
行ゆめ名義とてかうきのきつじに

よそをさへた

黒川盛隆
浪速政戸

きそかくわむれ遠くあがゆれうき

松尾榮祥
世語といふも名をうきせんばくよ

せゆゆくも

小木尚方

かくせらうるむく一はくよつとね名を

僧靈明
せうとうにぎき

秋の草むかづきめつみ名をくく

黒澤定義
津波りみりゑ

變のきとく

安田友泰
りくのうなとく

子すやや本
つとめりく

釋崇源
まことのう

人うれづくを初しやくのうよつとく

むじうりく

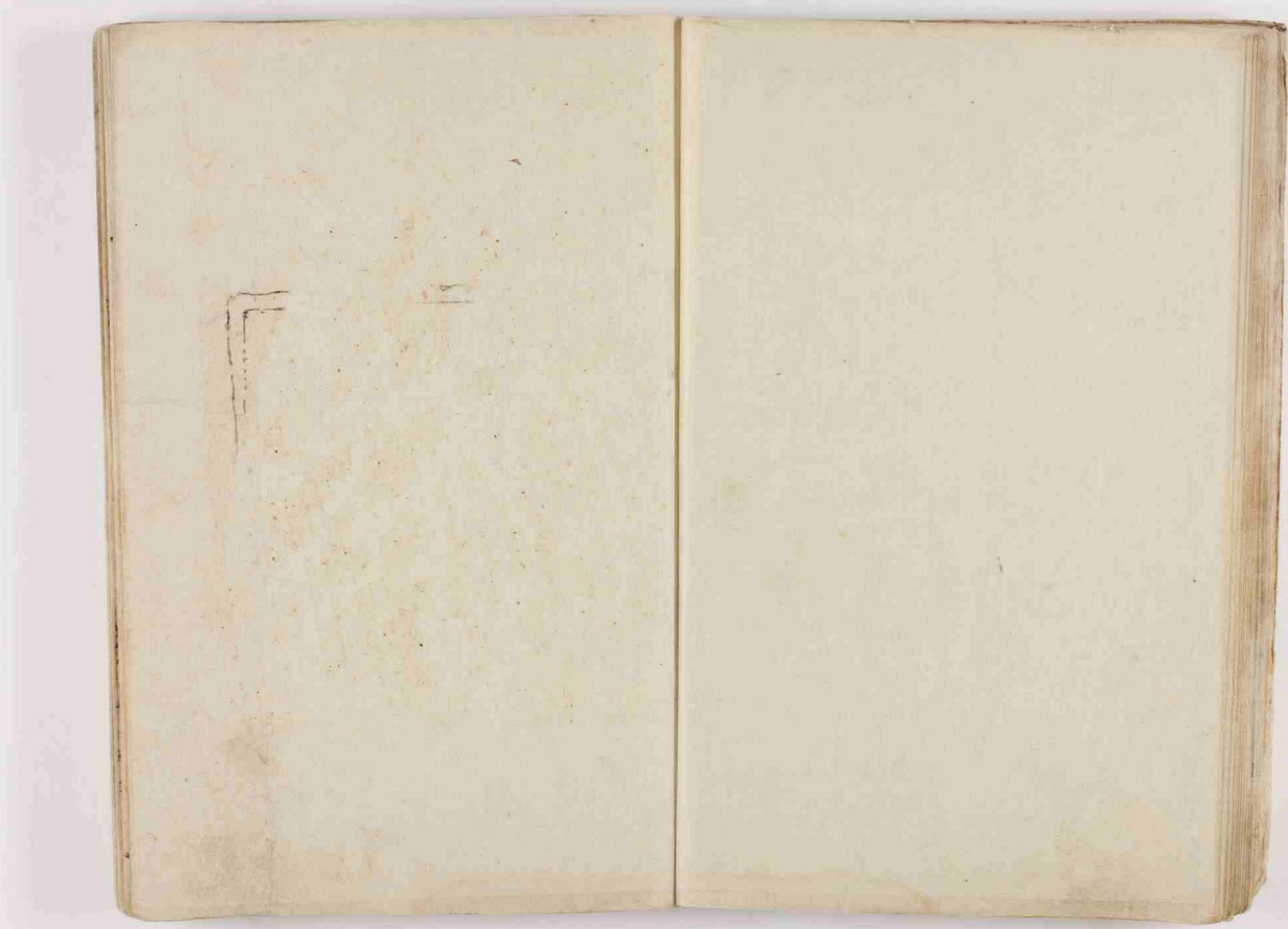
錦糸塚とよの長歌

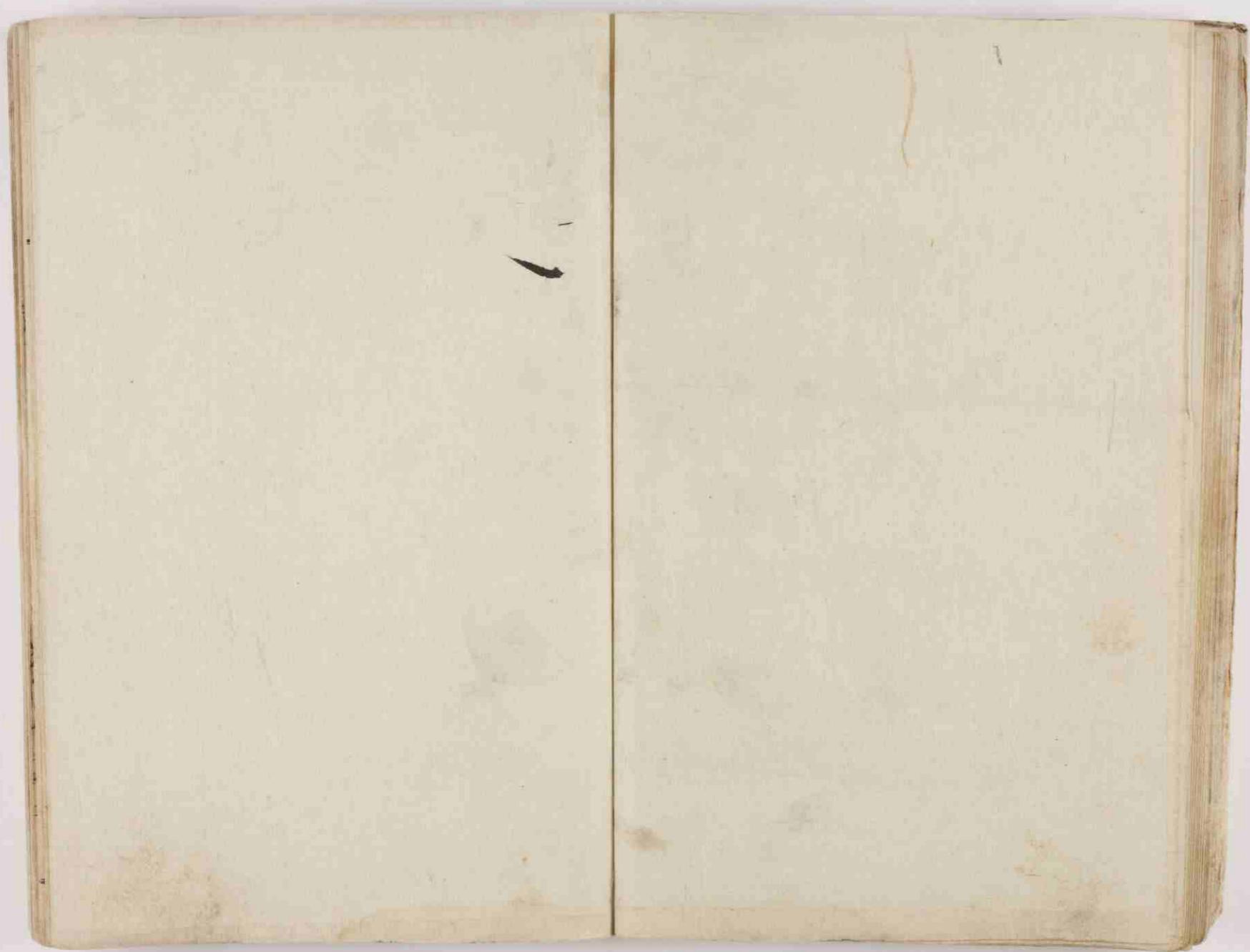
三輪種子

律子れど 滝のひらを 帰るの
 おれゆき 立ねすひく 遊子ア 事くよと
 里人ア 我も讀く もるか
 まゆの もる肩根 いづれ
 ふの里ア 貞ノ故ニテ もる細布 携け
 神を守り、棚機ア もるもさえ
 らやうにせん 織り出を
 龍タモチ 亂流等 帰のよと あき
 ひの國無、母は姫 りくとも て天放
 あまなまじ まとも おもむき すみ接
 そくひれを まつて の俗ニ傳 まくら
 あゆきども おもむき まくら まくら
 おもむき まくら まくら まくら
 千束百束 伏巻の

門小立ア わきよ 徒歩より 通ひ珍乃
 跡毛の壁と 草むしり 有る見えふ あわら
 実、あれも 鳴るの 勝麻モモ あくまの
 木の株モモ すの木モモ あくまの
 遠くえま 世の木モモ すの木モモ あくまの
 うを乱れく あめり ぬの木モモ は千枝ア
 金小竹モ ヒノキの 形見られても まくら
 木の外 うなぐ ぬの木モモ は千枝ア
 タのうと もううと 渡してある 霧あくま

17/64







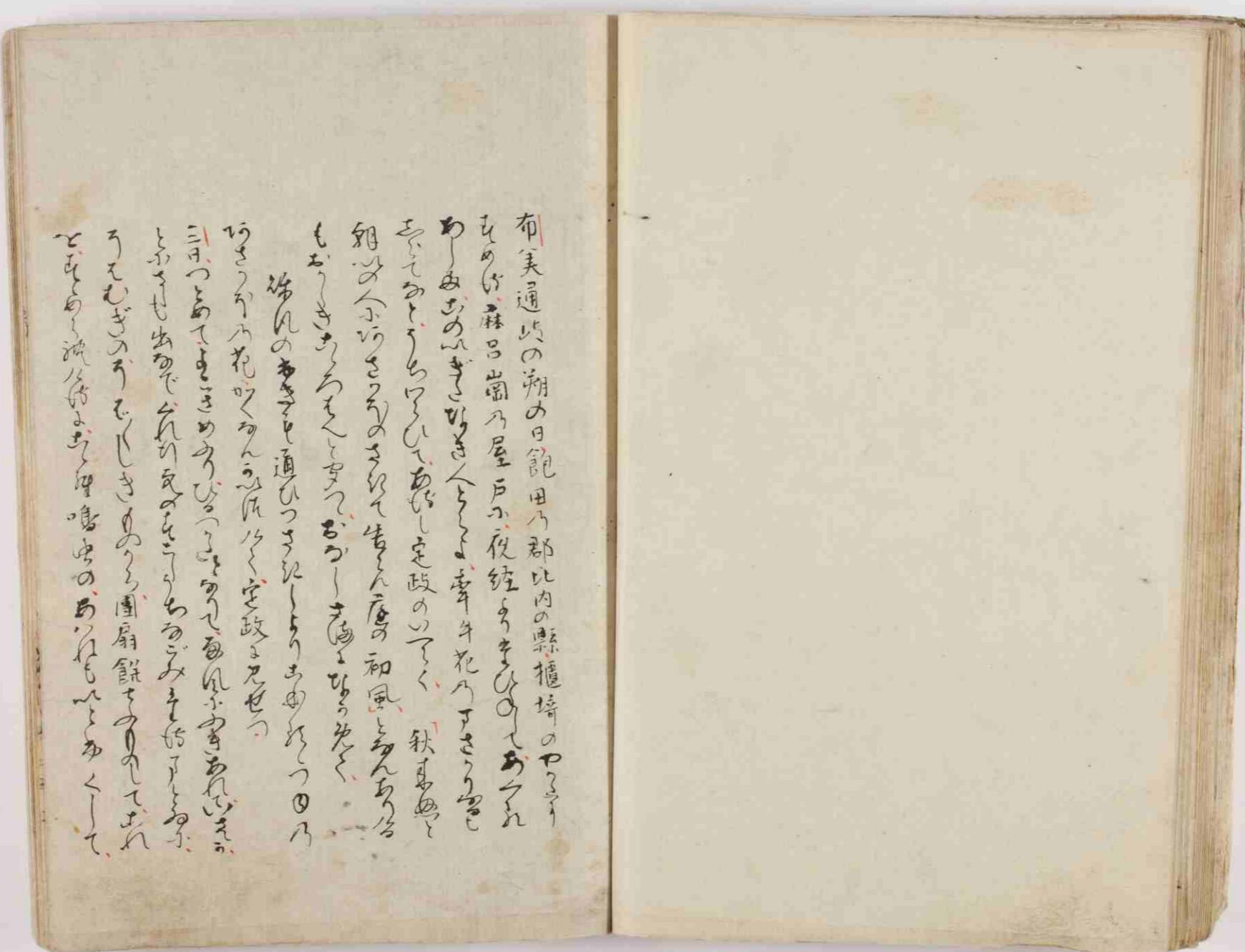
○ 鐸銓圖

開田次筆三卷。風升亭主金子氏。古器書画類。い
孫數多集て耳。其中和泉國大島郡百瀬村。
塙也。古銓あり。碑文。土師氏祖。見宿神の宅地。東
山。正天皇の陵西に。履仲天皇の陵。仁德天皇。大
仙陵も近し。宿神の社。その近くより。上河。其代の物。
へしと。力劍類も。うりしきと夫。猪裔。も。久須。一。唯
此銓。全く有もと無。即開て。小ツ筆。上。足手。勿目。も。



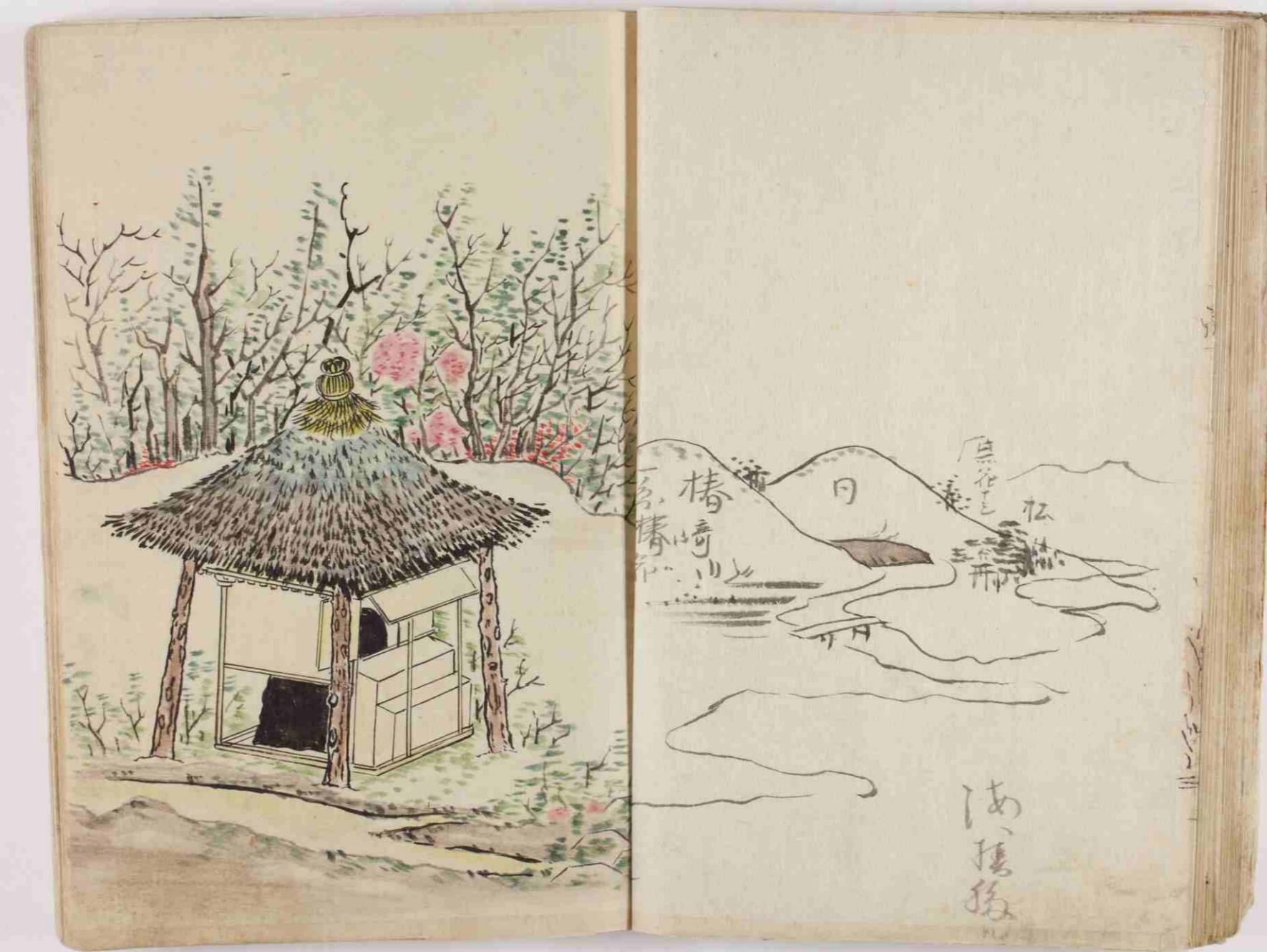






布美通の朝の日館内郡比内の縣櫛崎のやまと
をりが、麻呂嶺の屋戸へ夜経きまひのとあされ
わすめにまきひまくとくよ、幸牛花へとまう雪
そそかとまうて、あはし定政のつぐく、秋葉と
相次ぐらきとまくとせん度の初風、とみだら
もとさきとくとくとまく、おうと高きひまく。
拂れのあまくと通ひつるにとまくとめのつる
りきくわ花づくらふ御候く定政と見せつ
三月つあてまきりうひくとまくとめ風ふ事あひえ
とあすむ出でぬれえとまくとめとめとめとめ
うそもぎのうじしきあらう團扇餅すすりしてお
とまくと流蘇よとせ鳴ゆの、あはもととまくと





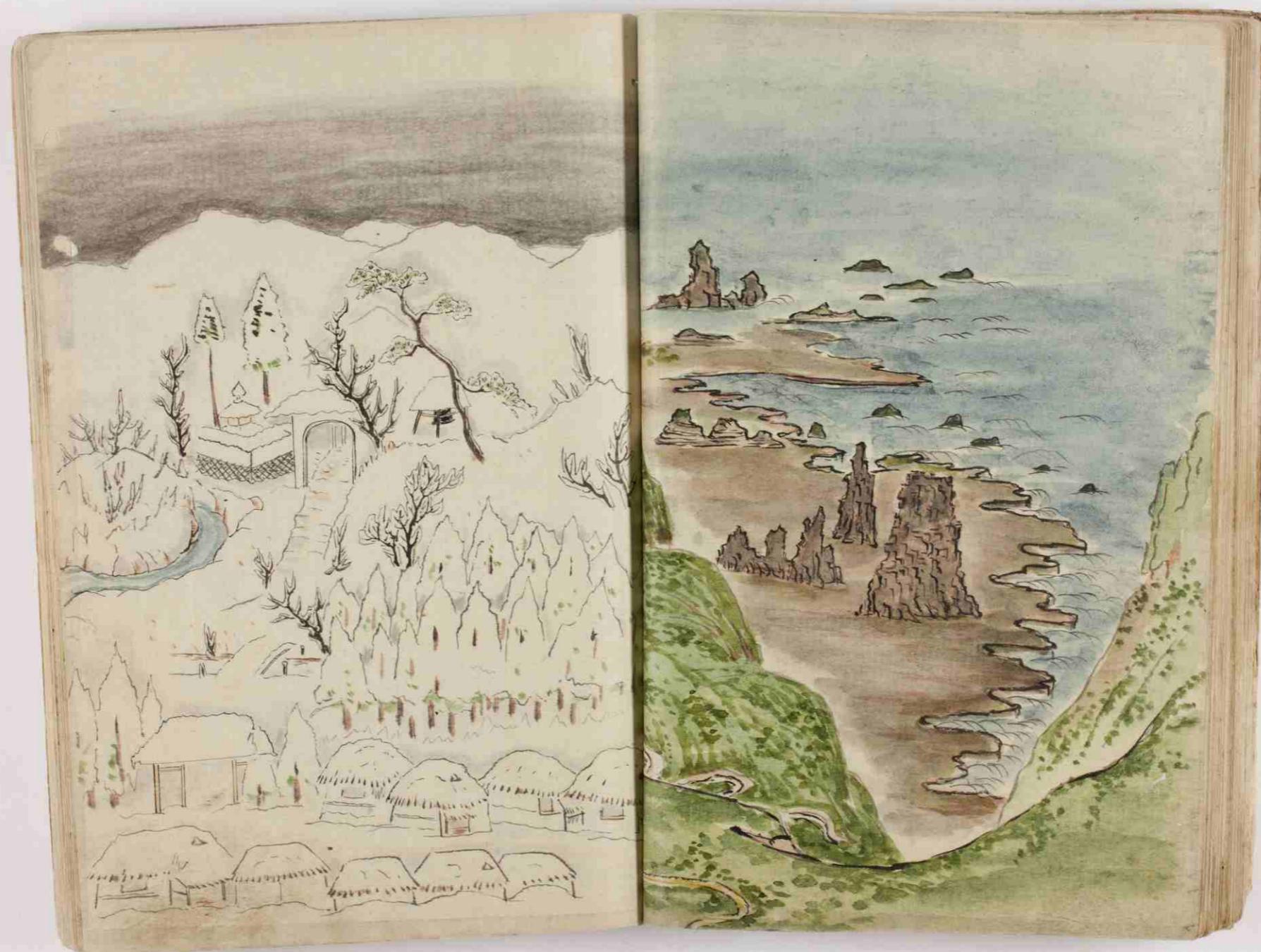








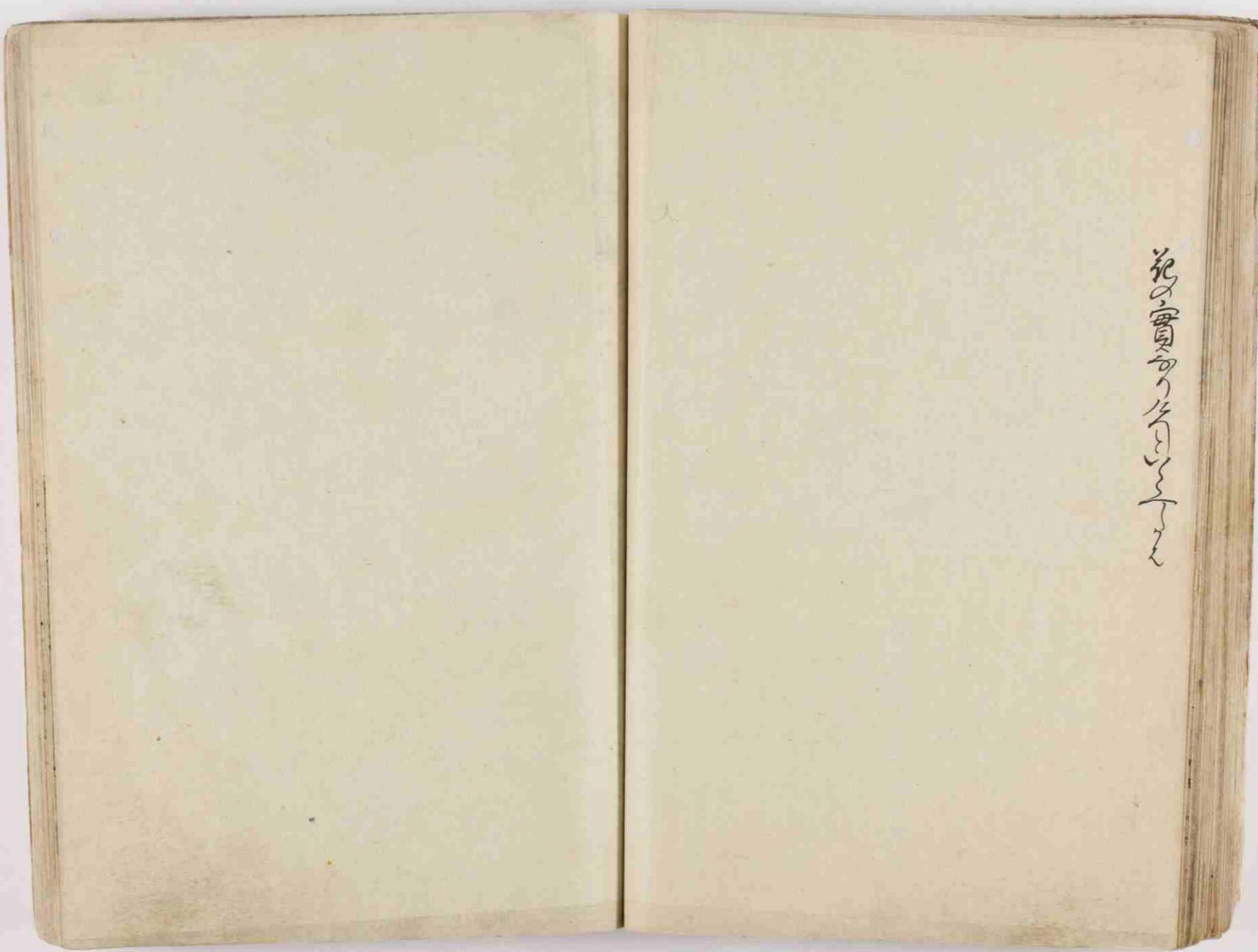


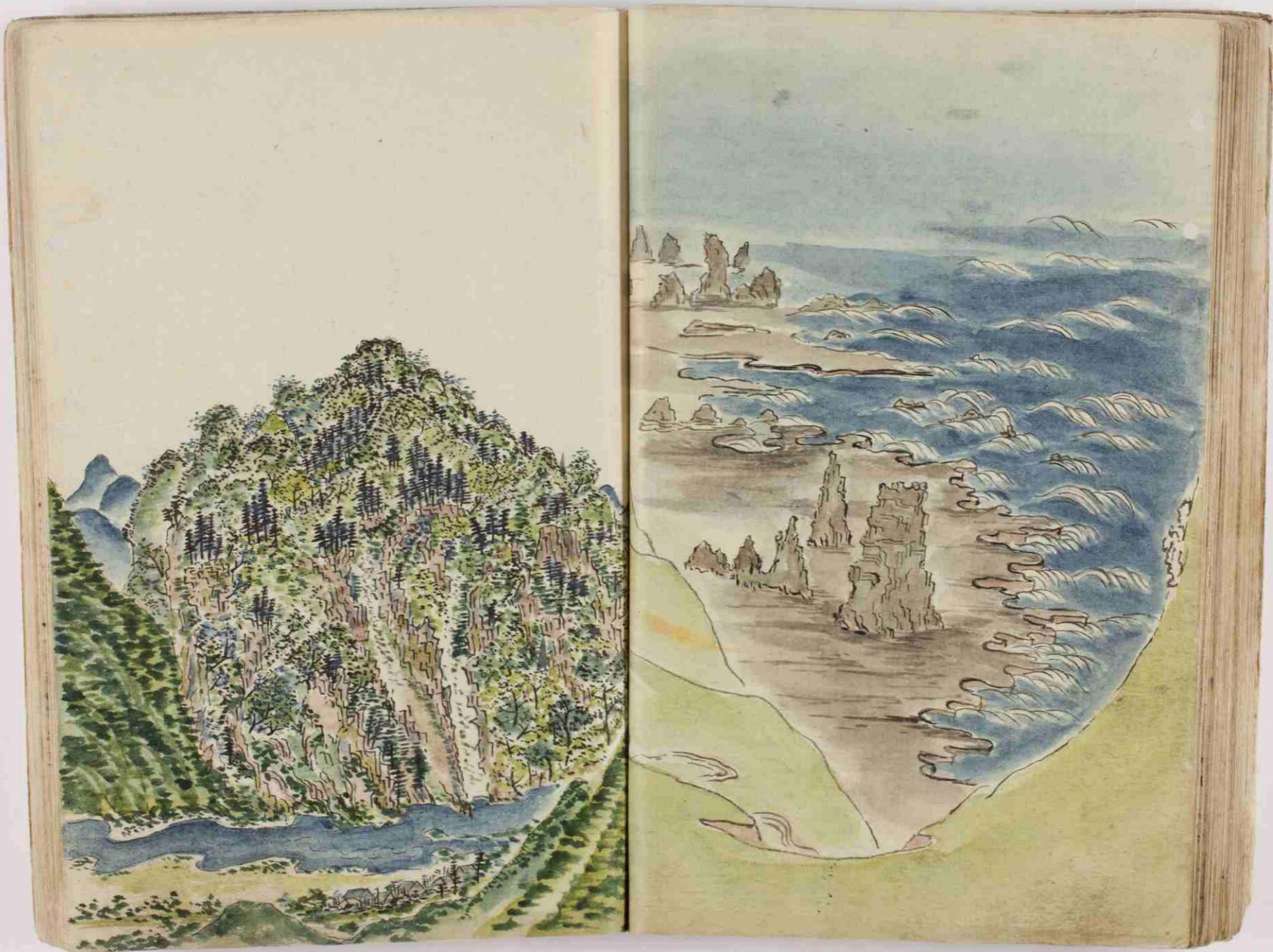




















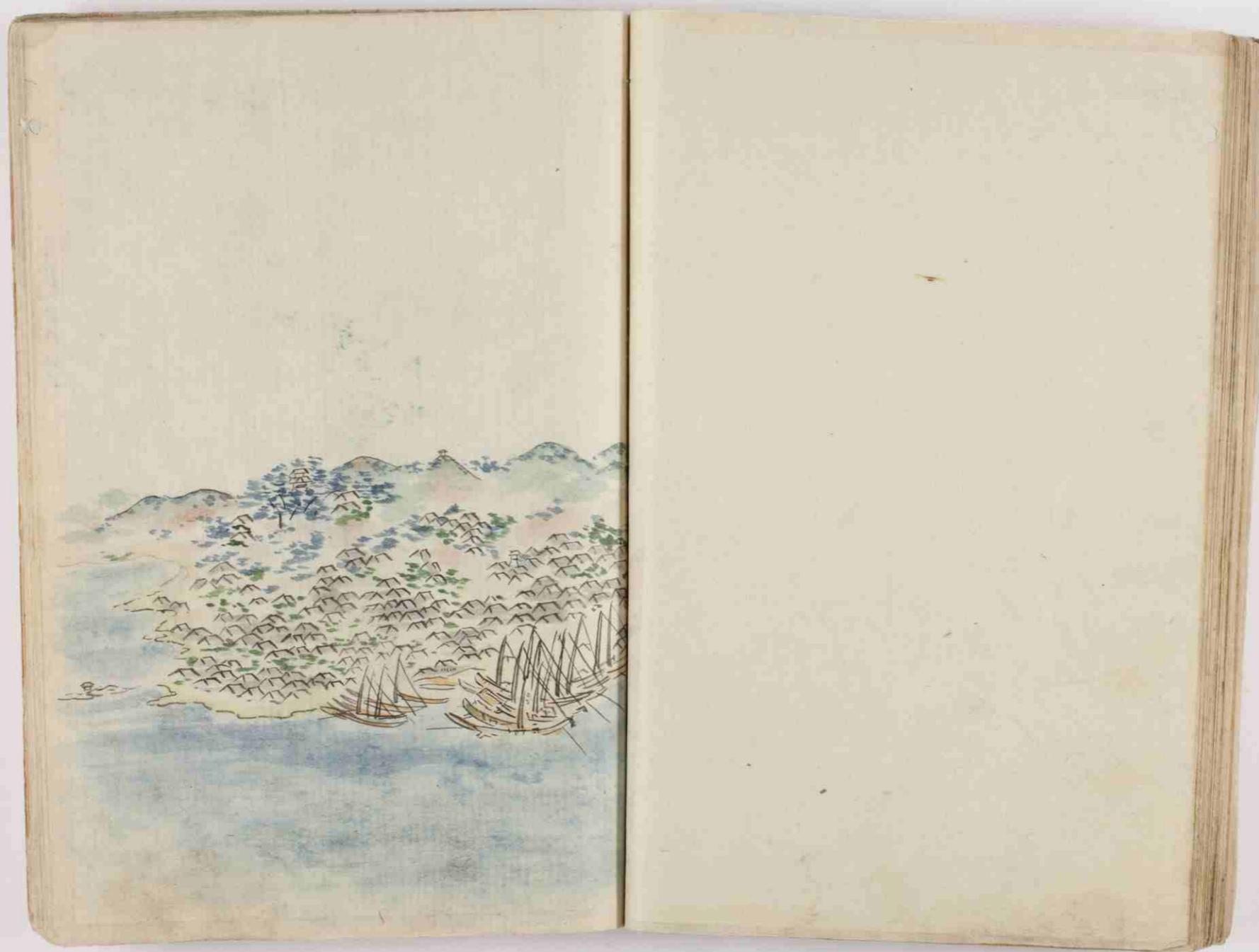








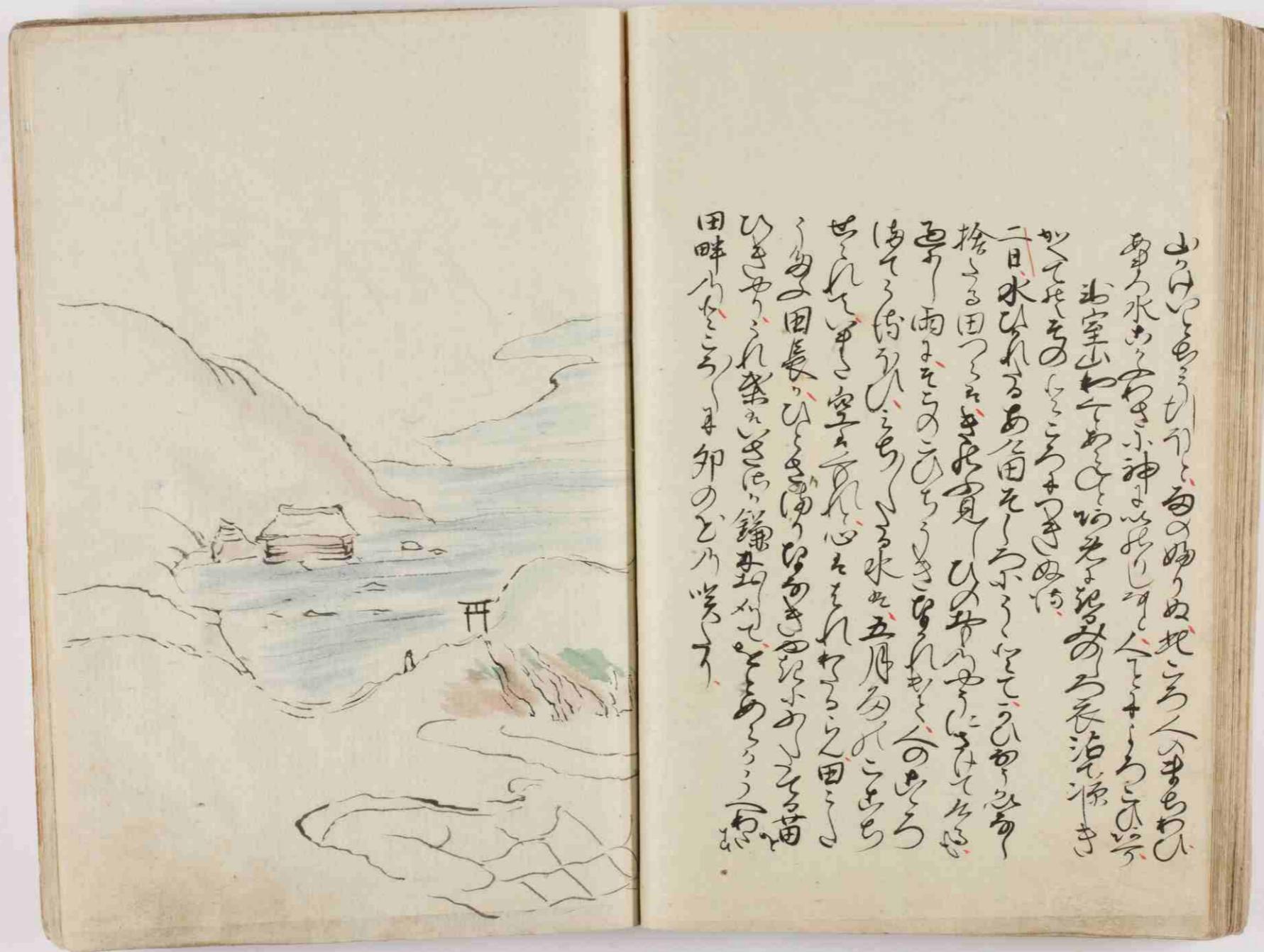


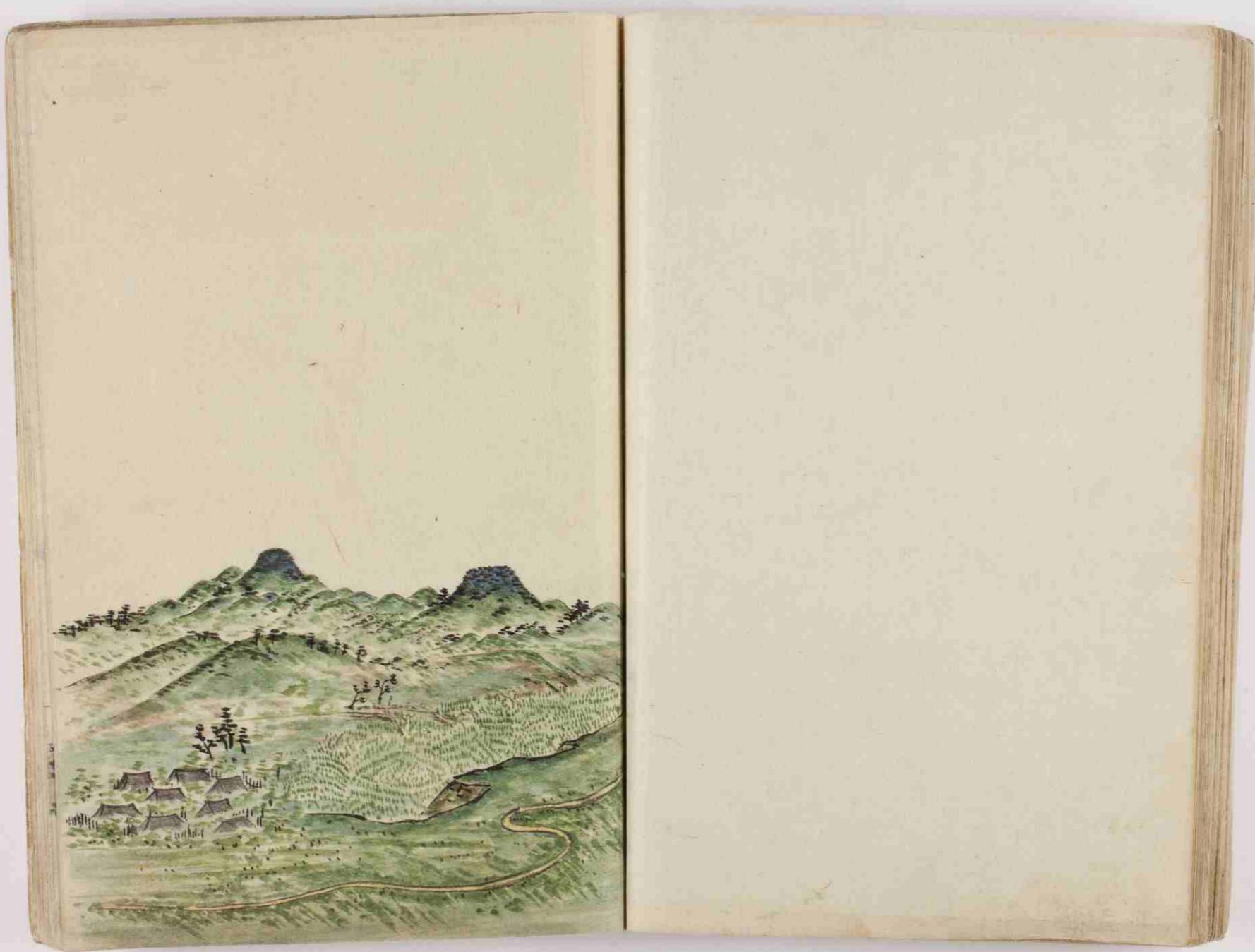






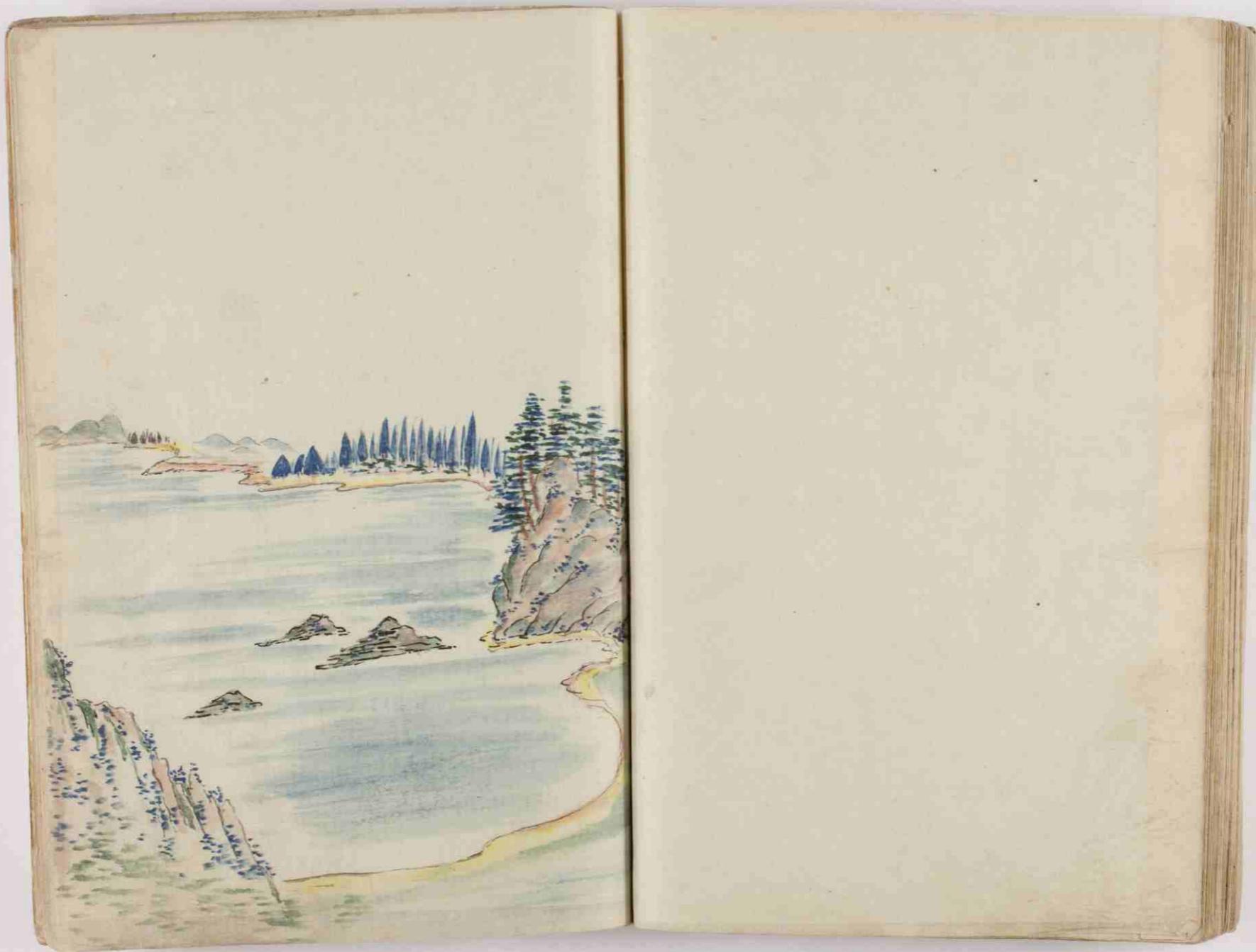




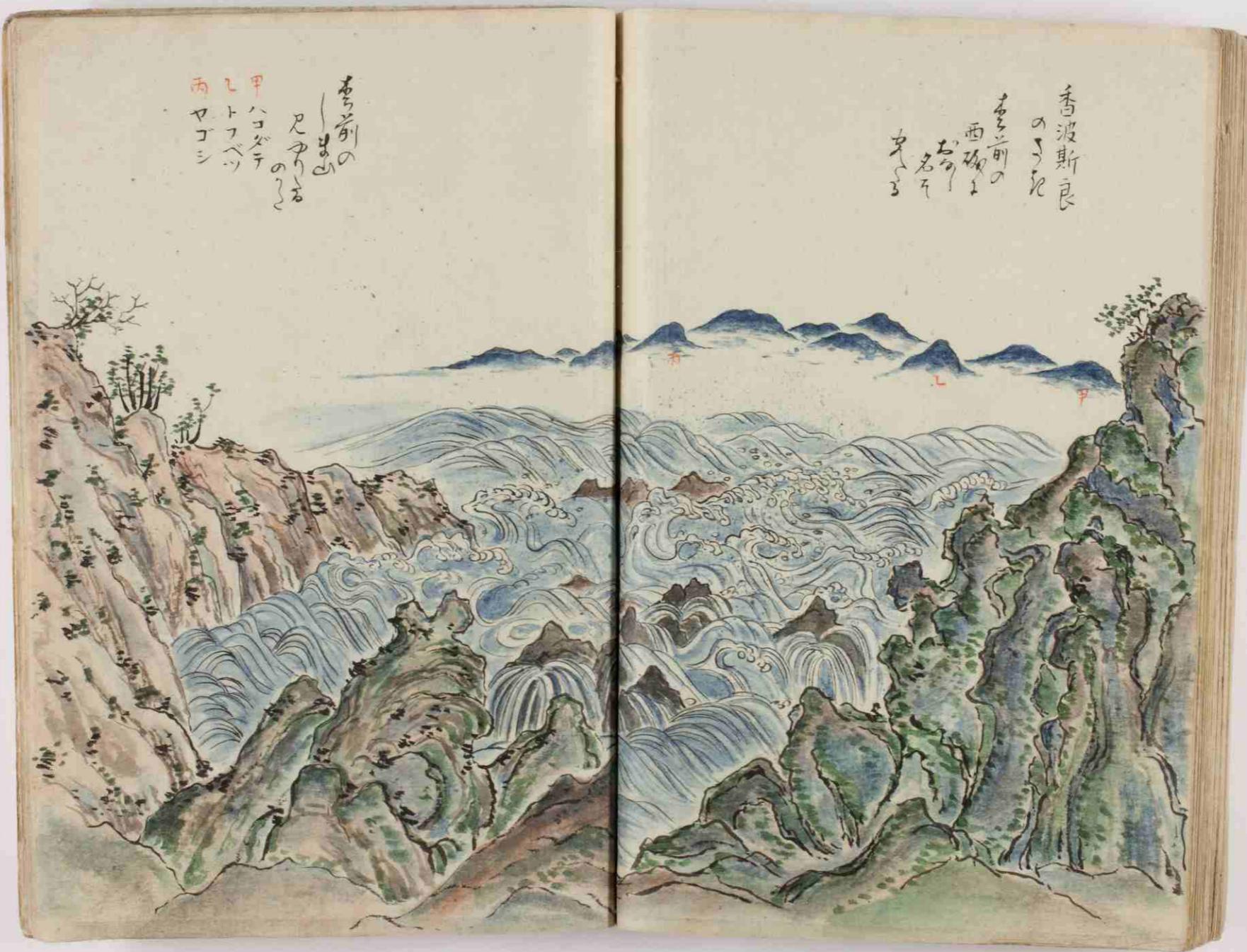


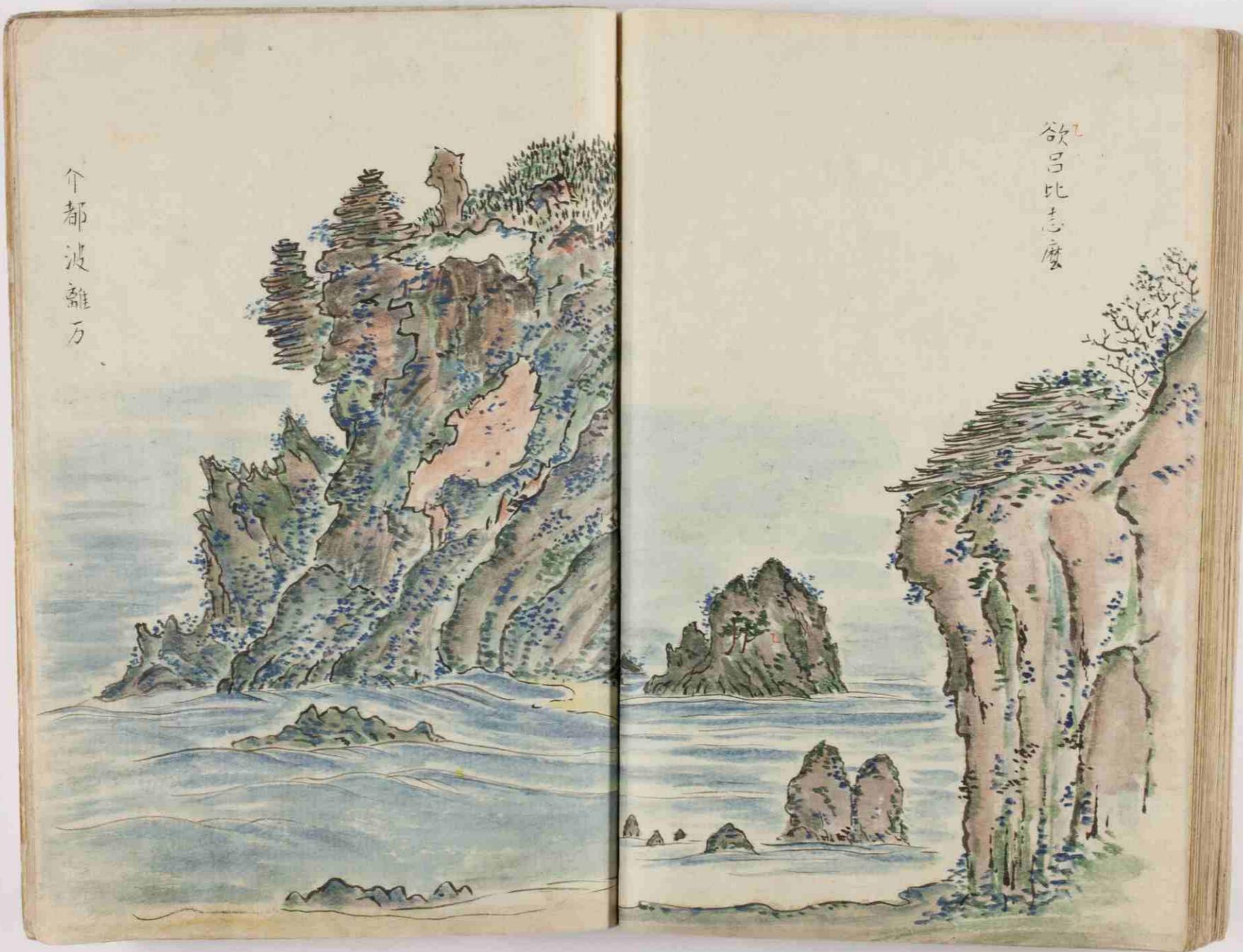


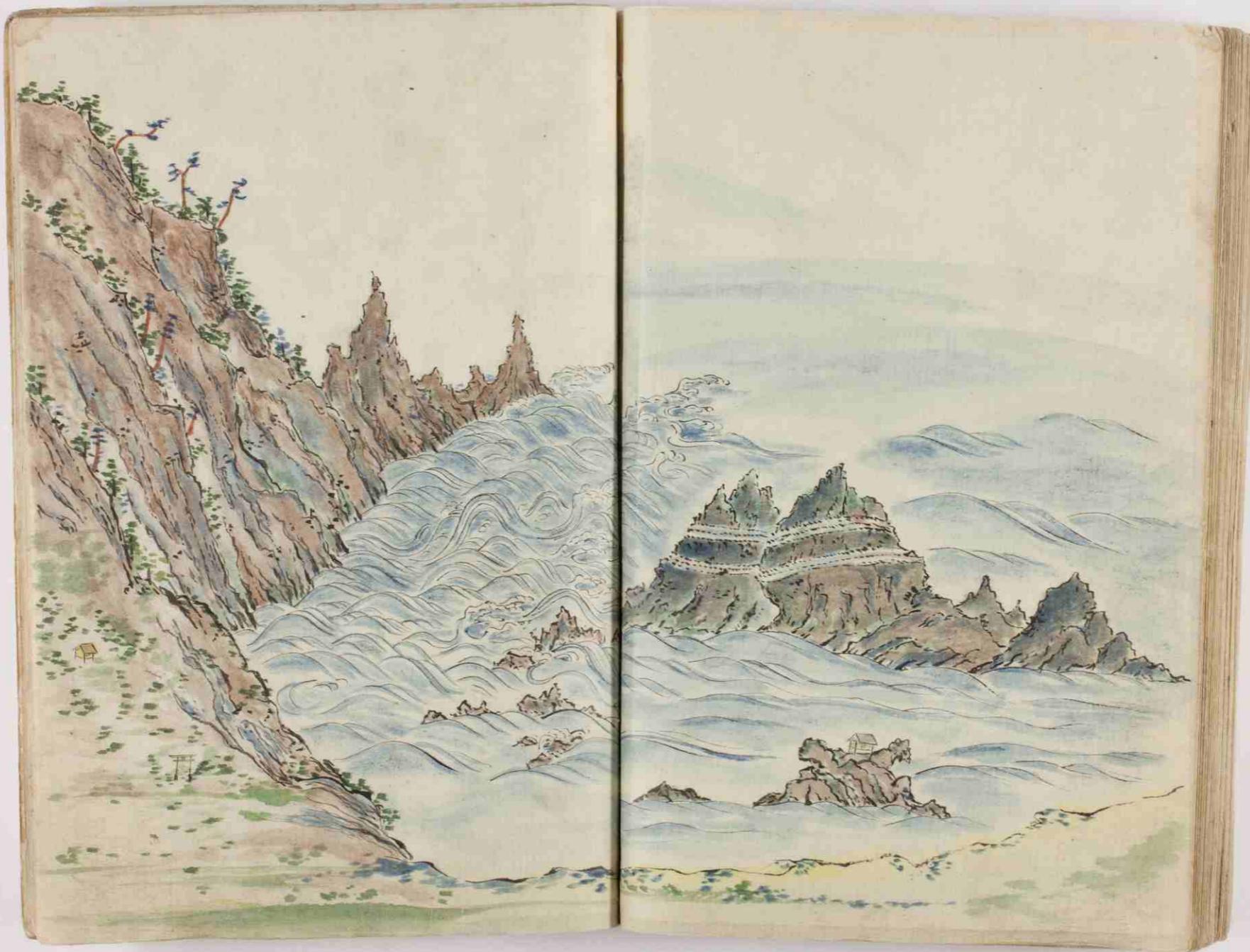


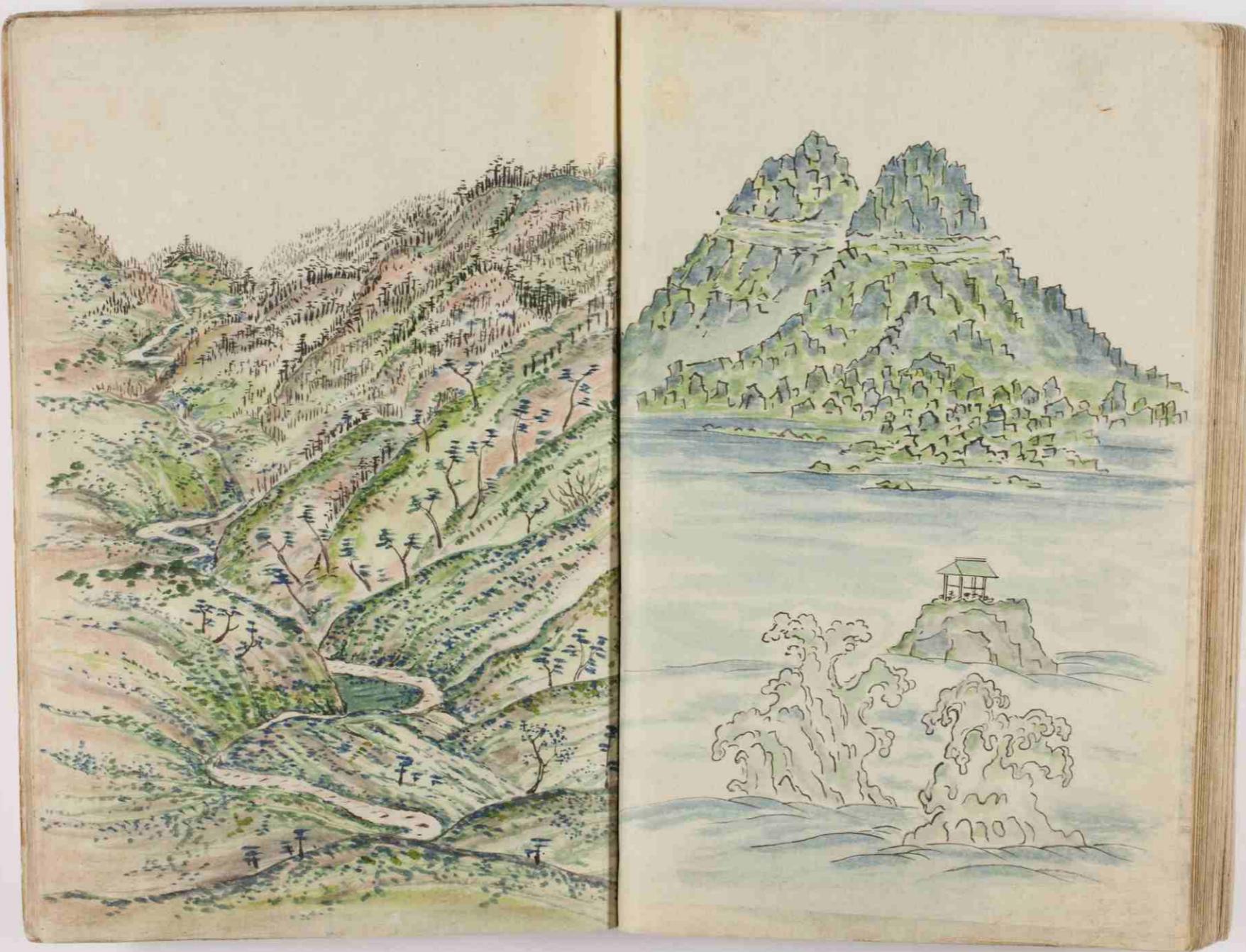




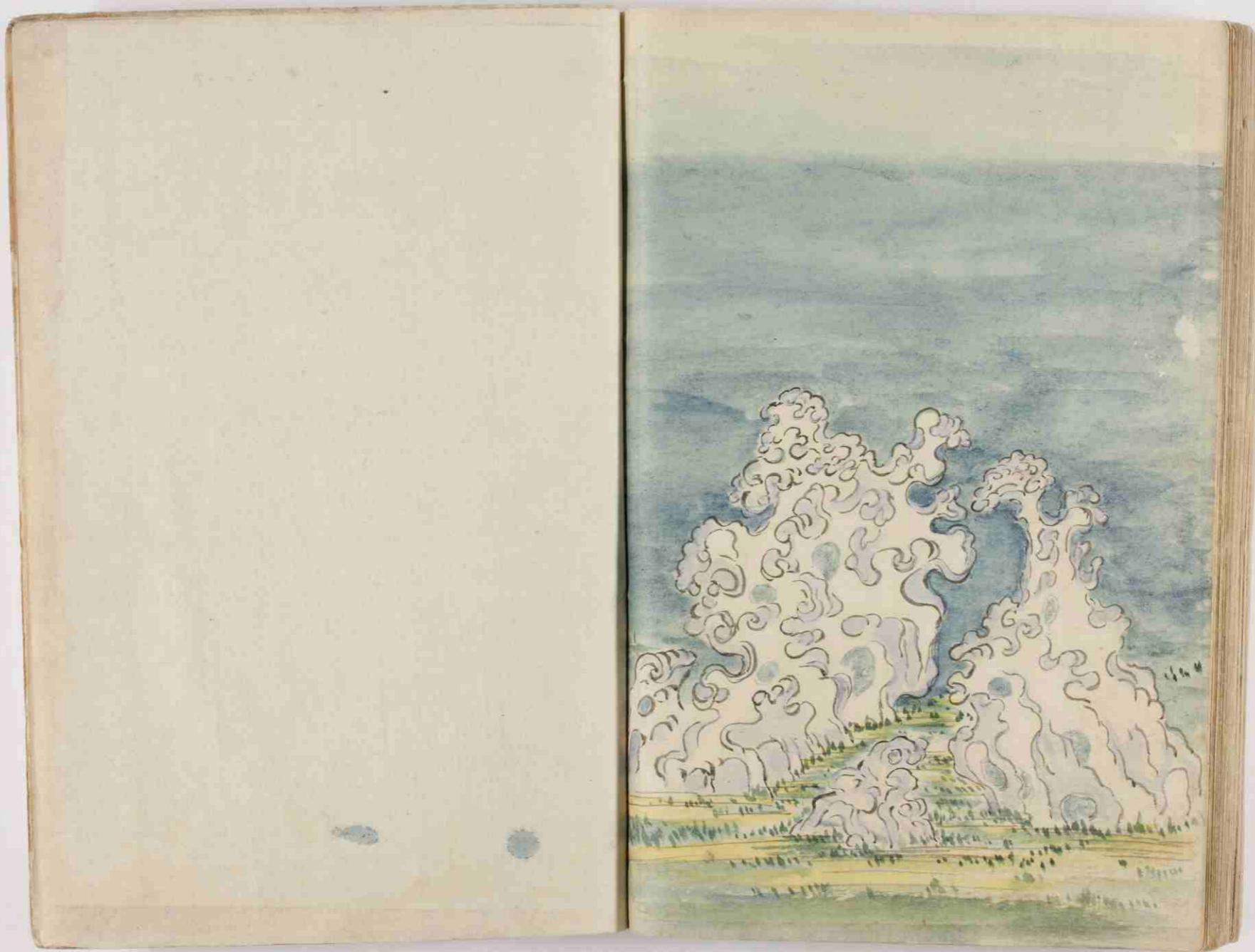




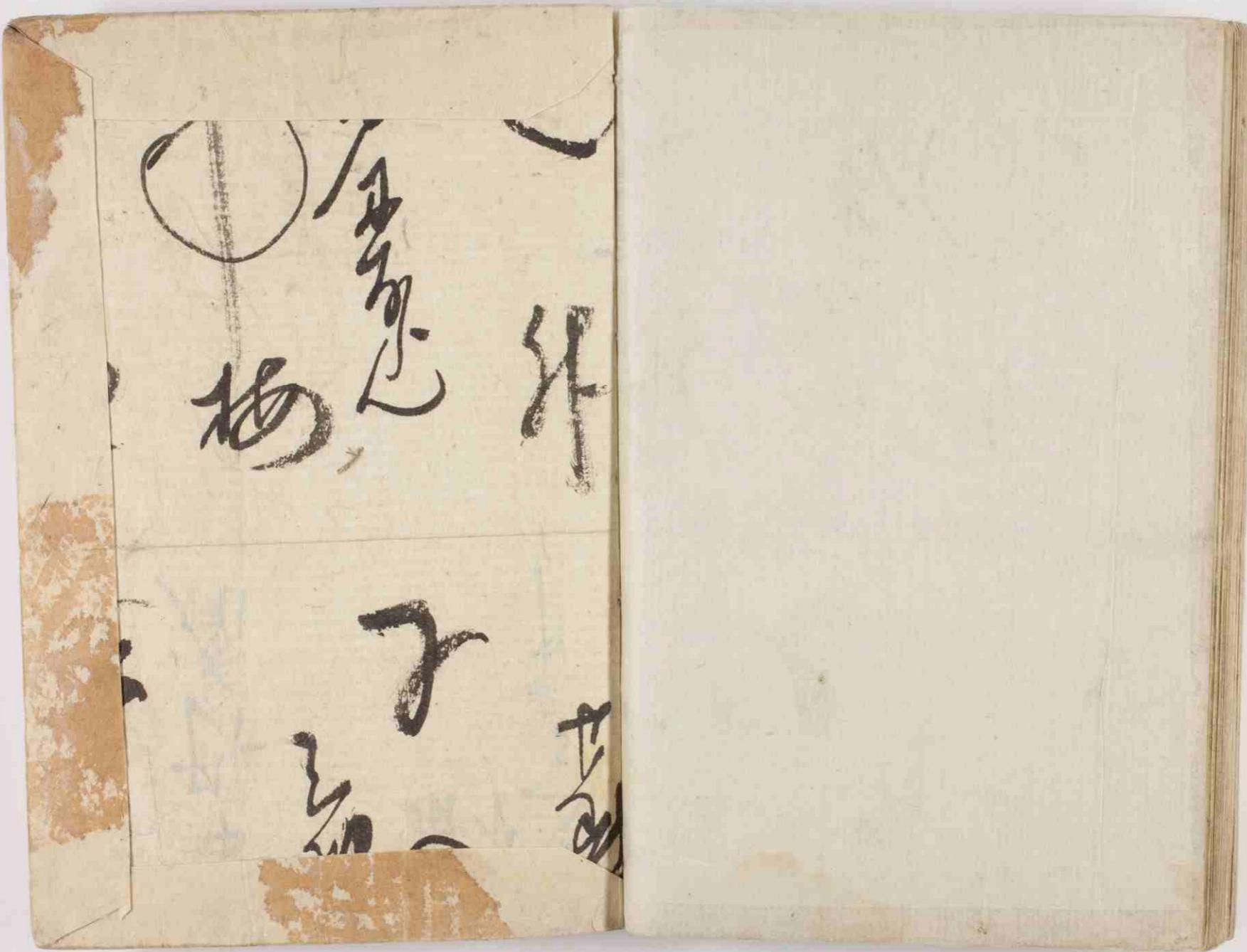












64/64

